

宇喜多家史談会会報

第 90 号
令和6年4月17日

宇喜多家史談会
〒700-0826
岡山市北区唐屋町六一二八
光珍寺気付

【令和六年度総会会長挨拶（代理者）】

宇喜多家史談会の皆様へ

令和六年度宇喜多家史談会総会の開催にあたり、会の運営・活動にご尽力をいただいております皆様方に、心より敬意と感謝を申し上げる次第であります。

皆様方の深いご理解とご指導のもと、宇喜多家史談会初代会長の柴田一様、二代目会長の天野勝昭様の意思を引き継ぎ、三代目会長就任の拝命を賜ることをお許しいただきました。本当にありがたく身の引き締まる思いでございます。

本来であれば、会長として総会へ参加すべきところではございますが、今週末どうしても外すことのできない職務が東京であり、岡山へ戻る事が叶いません。

非礼をお許しいたきますとともに、ご理解を賜れば幸いです。

私自身まだまだ微力ではございますが、会の運営・継続、そして宇喜多家の功績の掘起しに役立てますよう尽力してまいりたいと思っておりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

また、昨年十一月には、「戦国 宇喜多家を顕彰する会」大河ドラマ誘致を目指して「も設立の運びとなり、宇喜多家が脚光を浴び、地元の誇りとして数々の功績を広く知っていただく機運は一段と高まってきております。

宇喜多家が、岡山の街づくりの礎となることで時代を繋いでこられたように、世代が変わっても持続可能な活動をこれからも心がけ

ていきたいと思ひます。

最後になりますが、宇喜多家史談会の益々のご発展と、会員ならびに関係者皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

皆様とともに歩みを進めさせていただければ幸いです。

令和六年三月十六日

宇喜多家史談会 会長 山下 貴司

【令和六年度総会記念講演】

「宇喜多騷動について」

小川 博 毅

本日の演題は「宇喜多騷動について」であります。この宇喜多騷動と言いますのは、宇喜多秀家の時代、慶長四年の末から翌慶長五年のはじめにかけて、家老の戸川達安、岡越前守、花房秀成などが、大坂の宇喜多左京亮の屋敷に立て籠もり、主君・秀家と対峙して、武力衝突寸前までいった事件のことです。

今回は、この宇喜多騷動の「原因」については触れずに、事件の「時系列的推移」を中心に話を進めていきます。

まず、「史料A」の「戸川家譜」を見て下さい。

【史料A】「戸川家譜」（釈文）

- ①、戸川達安が山田兵左衛門に命じて、寺内道作を殺害させる。
- ②、その後、戸川は中村次郎兵衛を打ち果たすため大坂へ上る。中村は豪姫を頼って宇喜多屋敷に逃げ込む。
- ③、戸川が宇喜多屋敷の門を見張らせる。
- ④、中村は、夜中、女乗物に乗って脱出、加賀へ走る。